

参考図書紹介

熱帯・亜熱帯アジアの養蜂はトウヨウミツバチで

Kevan, P. 1995. The Asiatic Hive Bee: Apiculture, Biology and Role in Sustainable Development in Tropical and Subtropical Asia. Enviroquest, Ltd., Ontario. 316 pp. ISBN: 0-9680123-0-2 (価格未定)

本書は「熱帯および亜熱帯アジア養蜂研究協会におけるトウヨウミツバチ養蜂の振興に関する会議」という1988年2月に開催された会議の論文集である。会議については出席した当研究施設の小野正人講師による報告が本誌9巻2号に掲載されているので参考いただきたい。

この会議の主催は会場となったマレーシアのマレーシア農業大学とカナダのゲルフ大学で、発起人であるゲルフ大学のケバン教授がその時発表された37編の論文を取り込んでこの一冊にまとめている。開催からすでに9年の歳月が経ち、その間、ケバン教授に出会うたびに進行状況を知らされながら、長く刊行を待ち望んでいたが、最近ようやく手元に届いた。

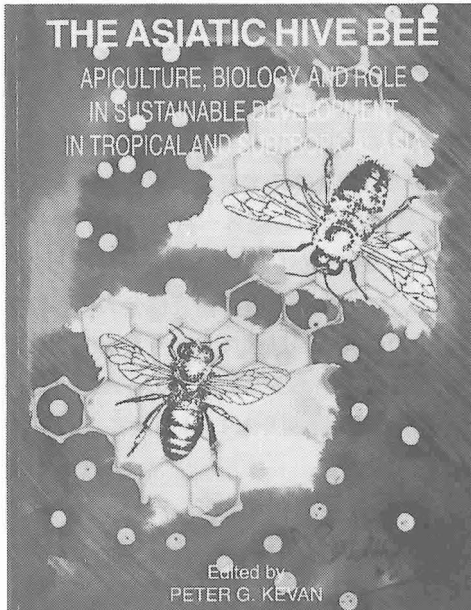
外観は、途上国の研究者や養蜂普及にかかわる人々にも入手が可能なように、ペーパーバックで、紙質も必ずしもよいとはいえないが、コ

ストを下げるためマレーシアで行われた印刷は比較的良好で、刊行にこぎつけるまでのカナダ・マレーシア間のやりとりに費やされた時間と努力が忍ばれる。

内容的には、第1章「アジアの養蜂の歴史」に始まり、第2章「トウヨウミツバチの生物学的基礎」から、第3章「遺伝、育種、交配」、第4章「養蜂植物、採餌、花粉媒介」、第5章「病害と防除」、第6章「養蜂管理、経済学、ハチミツ生産」までの各章には、トウヨウミツバチ養蜂にかかわる事象が多面的かつバランスよく配置されている。ニュース欄に掲載した玉川大学関係者の論文も2, 3, 5章に計4報採録されている。一部の論文は、養蜂という観点からは学術的すぎるという感も否めないかもしれないが、図表や写真も多用され、興味をひきやすいように構成されている。最後の第7章「養蜂振興」では、きわめて有意義で、実際の議論が展開され、熱帯・亜熱帯アジアの養蜂でのトウヨウミツバチの利用の意義について理解を深めることができる。

当時、青年海外協力隊の一員としてネパールでのトウヨウミツバチ養蜂の普及に係わっていた私には、会議そのものの開催自体非常に誇らしく思えた。またこのような会議を開催するところまでアジアの養蜂が注目され、有意義なものであると考えられていることは、現場でミツバチと、あるいはどちらかといえば養蜂事業を進める母体事業の役人との悪戦苦闘を続ける毎日であった身には、いずれ力強い追い風になるであろうと期待できるものであった。会議録がネパールでの任期中に手元にあったならば、人を説得して回るのに役に立っただろうし、自分もトウヨウミツバチ養蜂にもっと入れ込んでいたことだろう。もっともそうだったら、今でもかの地にいたかもしれない。

しかしこの9年はあまりに長い。Beekeep-



参考図書紹介

ing & Development 誌の主幹であるブラッドベア博士も同書の書評で、編者の努力に敬意を表しながらも「…やや熟成期間が長い…」と記している。この9年間にアジアの養蜂は大きく動いた。会議から3年後の1992年には、アジア養蜂研究協会が旗揚げし、BEENET ASIAも結成された。各地でのトウヨウミツバチ研究も進められ、多くの新知見が蓄積され、新種の

ミツバチまで発見された。

1989年にトウヨウミツバチでの養蜂を推進しようとした編者の先見の目には敬服できる。その日播かれた種はすでに各地で芽吹き、しっかり根を張ってきつつある。うまくいっているようにも思えるが、時には初心に戻るためにこの本を見返すのもよいだろう。

(中村 純)

プリポリス本の決定版!?

酒井哲夫, 1996. ホントに効くのか!? プロポリスミツバチの未知のパワー. 双葉社. 190 pp. ISBN: 4-575-15228-5 (本体 825 円)

長年、玉川大学でミツバチを研究してきた著者が研究者の目から見てプロポリスとは何かを説いている。プリポリスについて様々な情報が巻にあふれている今、プリポリスの何がわかり、何がわかっていないのかをはっきりさせ、読者に少しでも多くの知識を持ってプロポリスに触れてもらい、正しく理解してもらいたいとの願いが込められた、読みやすくまとまった一冊になっている。

内容は、6章に分けられている。第1章では、過去に発表された論文や実際の体験談に基づいてプロポリスにどんな効果があるのかを紹介し、第2章「プロポリス再発見」では、今までのプロポリスの利用され始めた歴史的流れを、第3章「プロポリスの何がどう効くか」では、プロポリス中の主な成分とプロポリスの殺菌作用から抗ガン性までの研究報告や、本当に副作用はないのかどうか、成分と作用について述べ、第4章「ミツバチにとってのプロポリス」では、養蜂生産物全般やミツバチの社会生活、プロポリスの起源植物とミツバチの関係について述べる。第5章「プロポリスの見分け方」では、プロポリスの抽出法や熟成の意味や規格基準、表示、製品と種類などについて、第6章「プロポリスの使用方法」では、適量、飲み方、



保存方法、飲用以外の使い方を紹介している。

他誌に掲載された書評も同じような見解だが、本書はいずれの章も偏りがなく、適正に書かれている。ミツバチの側から、もともと巣箱の厄介者だったプロポリスがこれほどまでの人気者になって面はゆいともいえるかのようで、この種の本にありがちな力みが見られず、調子も軽妙で、構えずに読める。

巻末付録には日本プリポリス協議会から「認定之証」を発行された91プリポリス製造販売業者のリストがついており、プリポリス購入の際にも参考になる。

(江澤 真)